

# 紀伊半島中央部，奈良県中奥地域にみられる中新世岩脈の古地磁気と岩石磁気

## Paleomagnetism and rock magnetism of Miocene dikes in the Nakaoku area, Kii Peninsula, Japan

# 星 博幸[1]; 川上 裕[2]; 中島 和夫[3]

# Hiroyuki Hoshi[1]; Yuu Kawakami[2]; Kazuo Nakashima[3]

[1] 愛教大・地学; [2] 名大・院・地球環境システム; [3] 山大・理

[1] Dept Earth Sci., Aichi Univ. Educ.; [2] Graduate School of Env., Nagoya Univ.; [3] Earth and Env.Sci., Yamagata Univ.

<http://www.earth.aichi-edu.ac.jp/~hoshi/>

中奥地域の火砕岩岩脈(弧状岩脈の一部)は正帯磁の残留磁化を持つ。この磁化は300 -400 の低いアンブロッキング温度を持ち、冷却時に獲得された初生磁化と考えられてきた。この従来の見解とは異なる仮説(二次磁化ではないか)を検証するために、筆者らは岩石磁気・古地磁気研究を行った。詳細な磁気測定と反射顕微鏡観察はこの磁化がピロタイトにより担われていることを示す。ピロタイトは岩脈定置後にその場でできた二次生成物と判断され、故にこの磁化も二次磁化である可能性が高い。他方、火砕岩岩脈の近くに産する石英斑岩岩脈からは南よりの偏角と深い伏角を持つ逆帯磁磁化(主な担い手はマグネタイト)が得られた。筆者らはこの磁化が初生磁化で約15Maの弧状岩脈貫入時の古地磁気方位を示すものと解釈する。この方位は室生火砕流堆積物の方位と異なる。従って古地磁気方位の視点からは、室生の給源はこの弧状岩脈ではないと考えられる。